



Gender equality & Poverty reduction

ジェンダー平等・貧困削減ニュースレター

July, 2018 / Vol.1

Cover Photo: JICA / Sanae Numata

CONTENTS

.....

巻頭メッセージ

ジェンダー平等の潮流：G7 サミットで“Gender”が主要議題に

貧困削減の潮流：BOP 層への金融包摂に新たな可能性

ドナー情報：英国国際開発省

案件紹介：パキスタン「定期予防接種強化プロジェクト」

コラム：①お知らせ / ②映画紹介 / ③書籍紹介

巻頭メッセージ

社会基盤・平和構築部長として、ジェンダー主流化に密接に関わることになった。どうしてもインフラに関する事業が目立つ当部において、共にジェンダーを所掌するのは不思議な感じもするが、今やインフラ分野の開発においてもジェンダーの視点は常識、違和感を抱いている場合ではない。私は以前もこの部にいたことがあり、その時もジェンダーを見る機会があったが、最近のこの課題に対する風向きは国内外ともに、随分変わってきているとの印象を持っている。

例えば、日本政府の女性の活躍推進。これは“多分に”経済成長を企図したものながら、向かっている方向性は間違っていない。また、国際的に言えば、先般の G7 シャルルボアサミット。8年ぶりの開発大臣会合でも思春期女性がテーマになったほか、他のすべての閣僚級会合でもジェンダーの視点が含まれたと聞く。これは、カナダのトルドー首相の強いイニシアティブに基づくものと承知はしているが、その勢いたるや、自分の肌感覚ではカナダだけにとどまらないものを感じる。

来年は日本で G20 もあれば、W20 というものも開催されるという。TICAD7 もある。事業ジェンダーを所掌する部の部長として、この機を逃さず、JICA の中でうまく、自然な形でジェンダーの視点が織り込まれて行くよう指導していきたい。

(安達 一)

ジェンダー平等の潮流：G7 サミットで“Gender”が主要議題に

トランプ大統領のちゃぶ台返しばかりが大きくメディアで取り上げられましたが、実は今年の G7 サミット（6/8～9@カナダ・シャルルボア）では「ジェンダー平等と女性のエンパワメントの推進」が最重要議題の一つでした。

サミットでジェンダー平等に焦点を当てることを決めたのは、議長国カナダのトルドー首相。トルドー首相は自ら「フェミニスト」を公言し、2015年の首相就任時には、新内閣の閣僚を男女 15 人ずつ同数にしたことでも話題になりました。トルドー首相は「女性のエンパワメントが貧困削減の鍵である」との強い認識に基づき、サミットの開催に際して、世界各国のジェンダー有識者を招聘し、「ジェンダー平等諮問委員会」を設置。委員会の助言を受けながら、ジェンダー平等と女性のエンパワメントの推進に向けた G7 の取り組み強化に向けて強いリーダーシップを発揮してきました。

その結果、開発大臣会合（5/31～6/2@カナダ・ウィスラー）では、議長総括始め、3つの宣言（①持続可能な開発のための思春期少女の力の解放に関するウィスラー宣言、②人道支援におけるジェンダー平等及び女性・女児のエンパワメントに関するウィスラー宣言、③国際支援における性的搾取・虐待からの保護に関するウィスラー宣言）と 1つの原則が発表されました。

また、首脳会合の成果文書の一つとして「途上国の女児・思春期の少女・女性のための質の高い教育の推進に関するシャルボワ宣言」が採択されています。

これらの流れを受け、日本政府はサミット期間中、途上国の女性・女児の教育のために 2 億ドルを拠出することを表明した他、JICA も女性の経済的エンパワメント推進のための「2X チャレンジ：女性のため



6月9日のG7各国首脳とジェンダー平等諮問委員会メンバーとの朝食会の様子。メンバーにはノーベル平和賞を受賞したマララ・ユフザイさんや日本から国連女性差別撤廃委員会前委員長の林陽子さんが参加。（出典：内閣広報室）

「ファイナンス」への参加を表明しました。JICA 事業においてもますますジェンダー平等と女性のエンパワメントに向けた取り組みへの強化が求められています。

🔄 なぜ思春期少女のエンパワメントが重要か？

今年の G7 サミットでは、「思春期少女のエンパワメントの推進」がキーワードとなりました。一般に、思春期少女とは 10～19 歳の青年期にある女性たちを指して用いられますが、途上国の多くの思春期少女たちは、初等教育への就学を果たすも、思春期を迎えるころには、「結婚適齢期」として退学を余儀なくされ、学ぶ機会を奪われてきています。教育を受けることができないために少女たちは収入を得る手立ても得られず、その後の生涯にわたって貧困に陥りやすくなります。早期の結婚によって若年での妊娠・出産を繰り返す結果、身体的なダメージを負い、命を落とす女性も後を絶ちません。DV や性暴力、人身取引等の対象にもなりやすくなっています。G7 ではこうした思春期女性たちの現状に注目をし、支援を強化していく必要性が議論されました。思春期少女たちのエンパワメントを支援することは、少女たちの潜在能力を開花させ、女性たちの雇用や所得の向上に大きく貢献します。そしてそうした女性たちの活躍はコミュニティや国レベルでの経済成長や貧困削減を促進する力になります。

(藤田 昌子)

貧困削減の潮流：BOP 層への金融包摂に新たな可能性

🔄 CGAP とは？

CGAP (The Consultative Group to Assist the Poor: 貧困層支援協議グループ) は途上国の貧困層への金融アクセス確保に向け、パイロットプロジェクトや調査研究を通じて、実証を基に新たな方策・政策を提言することを目的とした、世銀に信託された研究開発機関 (グローバルパートナーシップ) です。38 の政府・援助機関、民間の財団が資金拠出し、メンバーとして参加しています。日本は 2000 年から毎年 30 万ドルを財務省から拠出しており、JICA はフォーカルポイントとして関わっています。

5 月 29 日～6 月 1 日にダカールにて開催された年次総会では、第 6 期の 5 年戦略である「CGAP VI (2019～2023 年)」の活動の方向性について議論されました。

「CGAP VI」では、女性、小規模農家、難民等の金融包摂や、デジタルファイナンスの電力、水、教育等の分野における活用促進につき、CGAP V に引き続き研究やパイロットプロジェクトが行われる予定です。加えて、今後益々デジタルファイナンスやフィンテック¹が興隆していく中で、Facebook、Google などの巨大インターネット・プラットフォームの金融包摂への関わり、フィンテック、ブロックチェーン²や AI (人工知能) の金融包摂への貢献可能性、デジタルファイナ



セネガルの ROSCA メンバー

ンスの規制・監督のあり方等について、研究を基に新たな方策・政策が提言されていく予定です。年次総会の最終日には、フィールドビジットが行われました。現地企業の一つ、MaTontine は CGAP の支援を得て、インフォーマルな貯蓄グループ (ROSCA : Rotating Savings and Credit Association) の取引をデジタル化するサービスを提供しています。セネガルの ROSCA では、メンバー (通常 10～20 人程度、多くは女性) がそれぞれ定期的に同額を拠出し、順番もしくはくじ引きなどで選んだメンバー 1 名が全額を受

¹ 「Finance(金融)」と「Technology (技術)」を組み合わせた造語で、ICT を駆使した金融サービスのこと

² 分散型台帳技術とも呼ばれ、データベースの一部 (台帳情報) を共通化して、個々のシステム内に同一の台帳情報を保有すること。取引に関するデータをすべての人が確認できることから改ざんが起りにくいというメリットがある。

け取ることができます。まとまった金額を受け取るため、貯蓄と同様の効果があり、家の改修費、教育費、結婚式・葬式等ライフイベントにかかる費用や、ビジネスや農業投資の費用として活用されています。MaTontine が提供するサービスにより、これまで ROSCA のメンバーが直接受け渡し、保管していた現金を、SNS を使ってモバイル上で管理することが可能となりました。これによって、安全性・利便性が高まったのみならず、今後、預金、融資、保険といったサービスを銀行や保険会社との提携を通じて活用可能となりました。このように、アフリカをはじめとし、途上国では BOP 層に対してフィンテックを活用したサービスが急速に拡大しています。

(横田 千映子)

ドナー情報：英国国際開発省 (Department for International Development: DFID)

☞ ジェンダー平等や貧困削減に関する他ドナーの最近の動向を紹介していきます。

2018 年 3 月、DFID がジェンダー平等のための新しい支援戦略として「A Call to Action for Her Potential, Our Future」を発表しました。英国ではすべての開発支援事業においてジェンダー主流化に取り組むことが、2014 年の「国際開発法 (International Development Act)」において義務化されています。今回発表された支援戦略では、①女性・女兒に対するあらゆる形態の暴力の根絶、② リプロダクティブヘルス/ライツ (性と生殖における権利)、③女子教育、④ 経済的エンパワメントと包摂的な成長、⑤ 政治的なエンパワメントに重点的に取り組むことが明記されています。詳しくは[こちら](#)。



案件紹介：パキスタン「定期予防接種強化プロジェクト」

☞ ジェンダー平等や貧困削減の視点を組み込んだ取り組みをしている案件を紹介していきます。

パキスタンのハイバル・パフトゥンハー州では、保健施設へのアクセスの悪さや治安の悪化、地域住民の間での予防接種に関する理解不足により、乳幼児が 2 歳になるまでの完全予防接種率は 2015 年時点で 54% に留まっていました。また、ジェンダーに基づく社会・文化的な慣習も予防接種率が低い要因でした。例えば、家庭内では母親の意思決定権がなく、予防接種には父親の許可が必要でした。また、男女隔離の慣習下では女性の行動が大きく制限され、予防接種を受けるために母親が子どもを保健施設に連れていくことができませんでした。そのためプロジェクトでは、父親に対する啓発活動や父親が在宅している時間帯を狙って予防接種活動を行いました。また、レディ・ヘルスワーカーと呼ばれる基礎的な保健サービスを行う女性を育成してきました。こうした女性たちが母親たちに予防接種の重要性や安全性を説明したり、ワクチンを接種できるようになったことで、外出が困難な地域に住む子どもたちや妊婦の予防接種率が改善しました。詳しくは[こちら](#)。



山道を進むレディ・ヘルスワーカー (写真提供：JICA 人間開発部)

コラム①：お知らせ～JICAのアフガン女性警察官支援が漫画に～

JICAのアフガン女性警察官支援を題材にした漫画が完成しました。アフガニスタンで女性が警察官になることに対し、周囲の差別や偏見に苦しみながらも、職務にあたらうとする女性たちの姿に感動すること間違いなしです。ぜひご覧ください！！詳しくは[こちら](#)。



コラム②：映画紹介～「ダンガル きっと、つよくなる」～

2016年制作の、国内外で大ヒットしたインド映画。インド映画＝歌って踊る恋愛ものの要素は一切ない、父と娘たちのスポ根物語。でも、「途上国あるある」や、インド社会の「女性はこうあるべき」といった規範がとても印象的に描かれています。日本でもこの春上映されていましたが、見逃してしまった方は出張時の機内や、いつかDVDが発売されたらぜひ観てください。泣けます。お勧めです！（ちなみに「dangal ダンガル」とは、レスリング競技という意味合いを持つそう）

ちらりと… 予告動画 → https://youtu.be/rOrWAD5_tTA

♪ダンガル、ダンガル～♪
映画を観たら、このフレーズが
頭から離れなくなること、間違いなし!!!

(山口 綾)

コラム③：書籍紹介～「はじめてのジェンダー論」～

➡ 加藤秀一 著 / 有斐閣スタジオ / 2017年4月 / 1800円+税

ジェンダー研究の入門書です。本書が入門書として巧みなのは、「女性専用車両」は女性への「特別待遇」なのではないかとか、科学や数学は女には結局は向いていないのではないかといった私たちが抱きがちで疑問をけっして馬鹿にせず、ひとつひとつそれらが社会の構造や性規範と結びついた問題であることを丁寧に描き出している点です。まったくの入門書として書かれているので、読みこなすために、ジェンダーに関する予備知識は必要ありません。「男が少女まんがを読むのは恥ずかしい？」など、アナタの、そしてワタシの中の「無意識の偏見」をくすぐる内容も盛りだくさん。読みごたえのある一冊です。読み終わった後には今までと違う風景が見えてくるかも…？

(久保田 真紀子)

終わりに

リニューアルしたニュースレターはいかがでしたか？これからもジェンダー平等と女性のエンパワメントや貧困削減に関する最新情報を発信していきますのでご期待ください。また、今後、ニュースレターで取り上げてほしい内容がありましたらぜひご連絡ください。

eiggh@jica.go.jp

(編集責任：藤田 昌子)

(デザイン：泉 貴広)